

平成22年度第2回市民評価委員会議事録

- 1 開催日時 平成22年11月12日（金）15：30～16：45
- 2 開催場所 応接会議室
- 3 出席者 委員10名（加藤友久委員長、篠原茂副委員長、田那部和明委員、加藤照雄委員、加藤晶子委員、桑田茂樹委員、伊瀬良一委員、加藤学委員、太田学委員、眞鍋委員、）
事務局4名（総合政策課 原、曾我部(み)、加地、曾我部（雅））
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議内容
- 1 開会
 - 2 各専門部会長報告
 - ・安心快適、健康生きがい部会
 - ・豊かな心、自立部会
 - ・交流連携、にぎわい活力部会
 - 3 質疑
 - 4 市民評価委員会の評価の決定
 - 5 その他（行政評価全般に関するご意見等）
 - 6 閉会

6 議事録

事務局	<p>本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。それでは、ただ今から第2回市民評価委員会を開会いたします。市民評価委員会は、委員長が議事進行することとなっておりますので、加藤委員長にお願いしたいと思います。</p> <p>加藤委員長よろしくお願いたします。</p>
委員長	<p>8月18日に第1回の市民評価委員会を開催し、その後各専門部会に分かれていただいて、これまでご審議していただいたわけですが、各専門部会とも、積極的なご意見がでて、大変有意義な会であったと事務局から伺っております。ご協力ありがとうございました。</p> <p>本日は、各専門部会から、評価結果の報告をいただき、その内容について審議し、最終的に市民評価として決定いたしたいと思っております。</p>

<p>桑田部会長</p>	<p>それではまず、安心快適・健康生きがい専門部会から報告をお願いします。 桑田部会長よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、これまでの安心快適・健康生きがい専門部会の結果を報告いたします。</p> <p>この専門部会は、平成22年9月27日、9月30日、10月4日の3回専門部会を開催し、14事業を評価いたしました。その評価結果については、お手元に配布してあるとおりであります、「重点化する」2事業、「現状のまま継続する」12事業という結果になっております。</p> <p>個別の事業での状況を申し上げますと、「大型ごみ収集事業」につきましては、実際やられているのは、市民から出された大型ごみを回収するといった大変良い事業だといいますが、内容について、出されたごみについてまだ再利用できるものやリサイクルできるものがあるという視野にたつて事業の進め方を検討して欲しいという意見もあり、これは、事業だけを考えるのではなく、関連するところを含めた広い視野にたつて継続して欲しいということでの市民評価となりました。次に、「自然共生事業」につきましては、新居浜市の野鳥などの冊子を作って学校に配布しているとのことですが、配って終わりということではなく、その後の活用を含めて検討していただきたいという評価としました。最後に、「国領川緑地整備事業」につきましては、活用方法について、団体だけではなく、市民が個人レベルで使えるような方向まで検討して欲しいという評価としました。いずれにしても事業だけではなく、空間的、時間的に広い視野の観点から検討していただきたいという意見が多かったように思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、豊かな心・自立専門部会からの報告をお願いします。</p> <p>篠原部会長よろしくをお願いします。</p>
<p>篠原部会長</p>	<p>それでは、これまでの豊かな心・自立専門部会の結果を報告いたします。</p> <p>この専門部会は、平成22年9月28日、10月6日、10月8日の3回専門部会を開催し、14事業を評価いたしました。その評価結果については、お手元に配布してあるとおりであります、「重点化する」3事業、「手段を改善する」1事業、「統合する」1事業、「現状のまま継続する」9事業という結果になっております。</p> <p>個別の事業での状況を申し上げますと、「中学校ハートなんでも相談員設置事業」につきましては、重点化するとされているのですが、これは、学校の</p>

	<p>スクールカウンセラーが市内の小中学校に配置できていないということで、いち早く全学校に配置していただきたいという意見が多くあり重点化するとしました。次に、「小学校特別支援教育支援員派遣事業」につきまして、発達支援課の移転に伴い、相談する人もきやすくなり便利になっており、なるべく小さい時に発達障がいを見つけて、対処することにより一生を棒に振らなくても済むのではないのかということもありますことから、この事業につきましても重点化して進めていただきたいという評価としました。最後に「職員提案制度推進費」につきましては、市役所の職員は一所懸命やってくれているとは思いますが、一課一改善という提案制度があり、事務改善の部分で提案内容が競合することから、どちらも市民サービスの向上を目的としているならば統合しても良いのではないのかという評価としました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。最後になりますが、交流連携・にぎわい活力専門部会から報告ですが、私、加藤から報告いたします。</p> <p>この専門部会は、平成22年9月30日、10月1日、10月5日の3回専門部会を開催し、15事業を評価いたしました。その評価結果については、お手元に配布してあるとおりであります、「重点化する」5事業、「手段を改善する」3事業、「簡素化する」1事業、「統合する」1事業、「廃止する」2事業、「現状のまま継続する」3事業という結果になっております。</p> <p>個別の事業での状況を申し上げますと、「新居浜野菜消費拡大事業」につきましては、単にマスコットや標語を作るなど表面的なことだけではなく、生産者、消費者両方の立場から、新居浜の野菜の消費拡大が図られるためにも、一元的な対応が必要であるということから重点化して取り組んでいただきたいという評価としました。次に、「別子山地域バス運行費」につきましては、一日平均2～3人しか乗っていない現状に対して、マイクロバスを運行していることについて、経費の面から無駄があるため、手段を改善して取組をしていただきたいという評価としました。</p> <p>以上、各専門部会からの報告でしたが、詳細については事務局の方で報告をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>先程、各部長から報告がありましたように、市民評価委員会全体としては、9回の専門部会を開催して頂き、43事業について、熱心な議論を頂きました。</p> <p>その結果につきましては、お手元にご配布いたしております「平成22年度行政評価対象事業一覧表」のとおりでございます。</p> <p>若干ご説明させていただきますと、自己評価と市民評価で評価結果が変わ</p>

	<p>った事業は、14事業（32.6%）ございまして、具体的な事業としては、商工労政課の「緊急雇用若者自立支援費」、保健センターの「予防接種事業」、学校教育課の「中学校ハートなんでも相談員設置事業」のように担当課では“現状のまま継続する”としていた事業が、市民評価では“重点化する”という結果となり、さらに集中的に取り組みを進めるという方向性をいただいた事業もございました。さらに、「別子山地域バス運行費」では、担当課では“現状のまま継続する”としていた事業を、市民評価では“手段を改善する”という評価結果をいただき、効果効率的な運営を行うようご指摘をいただいたものもございました。</p> <p>最終的な43事業に対する評価結果といたしましては、「重点化する」が自己評価5事業に対して10事業、「手段を改善する」が自己評価3事業に対して4事業、「簡素化する」が自己評価なしに対して1事業、「統合する」が自己評価1事業に対して2事業、「廃止する」が自己評価1事業に対して2事業、「現状のまま継続する」が自己評価33事業に対して24事業となっております。</p> <p>それぞれの事業を審議いただく中で、次年度への取り組みを進めていく際の貴重なご意見やアドバイスをいただくことができ、大変ありがたく思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>以上で、報告を終わります。</p>
委員長	ありがとうございました。それでは、質疑に入りたいと思います。何かご質問、ご意見等はございますか。
眞鍋委員	「污水管渠等建設事業」について、これは、補助金はつかないのですか？
事務局	下水道建設事業につきましては、補助金がつく事業と付かない事業で分けております。今回の単独となっております事業につきましては、補助金が付かない事業になります。
眞鍋委員	事業の内容が違うのですか？
事務局	下水工事という視点では同じなのですが、管径が大きいであるとか区域が大きい場合については補助を頂いて整備を行っております。
眞鍋委員	汚水処理については、この下水方式と合併処理浄化方式があるが、普及率

	<p>については全国平均に比べ低いという記述があるが、都会と田舎では違っており、例えば、香川県であれば50：50で、徳島県では合併処理浄化槽の方が多くて、下水道の割合が低いということから、全国的に田舎ほど合併処理浄化方式の割合が高く、都会ほど下水道方式の割合が高いという結果になっている。現在、新居浜市では56%位なので、毎年1%ずつ伸びていったとしても、全体にいきわたるには50年ほどかかることから、地域格差が生まれ不平等となってしまう。また、田舎に行くほど農地が多く、灌漑用水を流すため、きれいにして欲しいのに、街では先に下水で処理できるが、灌漑用水路には汚い水が流れているということになる。また、50年もしたら、更新、改修の時期が来ることから、市の借金が増えていくことが考えられる。そういう意味で、市民平等でやるためには、必要な所へきれいな水を流すためには、合併処理浄化槽をもっと積極的に取り入れるべきではないかと考える。線引きが廃止され、田舎と都市部の区別がはっきりしなくなったことから、段々伸びていくにしても、人口密度が低い所へ伸びていくため、投資効果が低いわけです。そのようなことから、下水道でなく合併処理浄化槽に積極的に予算を回して市全体で水処理に取り組んでいくことを検討するべきであると思うというのが私の主張です。</p>
委員長	このことについて、何か回答などありますか？
桑田部会長	確かに合併処理浄化槽の話はできました。ただ、このままの方法で100%下水道を完備するには平成69年までかかるということから、それまで、この事業がこのまま継続するのは問題であると思うが、現段階では下水道整備した方が良いという所が十分残っていますので、今回継続という評価をしているのはそのような意味で、合併処理浄化槽の方が良いという場所までやるという意味ではないです。
眞鍋委員	気持は分かりますが、費用で言いますと合併処理浄化槽にかかる費用はおそらく数千万円と思いますが、あまりにも差がありすぎることから、市としてももう少し予算的なバランスも考えてやるべきではないかと思えます。
桑田部会長	実際には、資料として地図などを見せてもらい、まだまだ不十分な所が多くある状況であることでの評価としています。
事務局	補足いたしますが、公共下水道につきましては、従来線引きがありまして、都市計画税を頂いている市街化区域を中心に整備を進めてきました。まだ一

	<p>部、船木や旦の上のあたりの整備ができていないという所は残っています。</p> <p>それとはもう一つ、水質の保全、生活環境の向上ということで公共下水道を整備しているところですが、今年度と来年度の2カ年にかけて、その区域の見直しを図ろうとしています。先ほど眞鍋委員さんから提案のありました全体を見直して進めていくことを前提にしております。ただ、縦割りにはなるのですが、下水のお金というのは、国土交通省のお金で、合併処理浄化槽については厚生労働省からの補助というものがあり、それぞれが違う制度で動いているということだけのご理解ください。</p> <p>下水のお金をそっくり合併処理浄化槽へ移すことはできないのが現状ですが、市としても公共下水道で整備した方が良いのか、合併処理浄化槽で整備した方が良いのか課題としてとらえて検討していきたいと考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>旧市街化区域中心に公共下水道で整備を行う計画をたてて進めているが、線引きが廃止になり、今まで家が建てられなかった旧市街化調整区域に家が建つようになってきており、土地が安いからと旧市街化調整区域に多数家が建つようなことになると、合併処理浄化槽で対応せざるを得なくなってきましたし、あくまでも眞鍋委員さんの言われることは、地域の特性を生かしながら水質浄化という面も含めて取り組んで欲しいということですので、行政としてもそういった意見を踏まえた中で行政執行して頂くようお願いできたらと思います。</p> <p>他の専門部会のことで聞きたいことなどはございますか。</p> <p>無いようでしたら、ただいまの評価結果を市民評価委員会の結果とし、経営戦略会議に報告いたしたいと存じますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、これらの評価結果を市民評価委員会の評価として、経営戦略会議に報告することと致します。</p> <p>その他行政評価全般について、ご意見等はございますか。</p>
<p>伊瀬委員</p>	<p>評価の対象について、市民が評価しなくても良いような事業が多数あったと感じるので、行政として市民の幸せに直結しているもので、市が市民にどうしても意見を聞きたいというものに絞り込んでいただきたいと思います。そのようにすれば、3日間の短時間でもっと濃密な議論ができると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>今までは、事務局から対象事業の提示がありましたが、今年度からは、市</p>

	<p>民評価委員で選定しようということになりましたので、500事業程の中から3つの専門部会に分かれて、今回の43事業を選定していることから、我々がもう少しそのような感覚で選定するようにすれば、伊瀬さんが言われている内容は解決できると思います。</p>
<p>篠原部会長</p>	<p>短い時間で評価しなければならないため、十分な議論ができていないかもしれませんので、来年は1事業に1時間くらいかけて評価するとか、事業をもう少し絞り込んで5事業くらいにするとかの検討が必要かもしれません。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度から、評価委員さんに選定をして頂いてはいるのですが、その全事業の内容が分かりにくいというのが反省点でもあります。そういう意味で、伊瀬委員さんが言われたように、市として市民の方の意見を聞きたいという場合には、評価していただきたい事業を市の提案として、出させて頂くという方法もあるのかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>対象事業を選ぶ際には、認定補助金や公募補助金については対象外となっていますが、これらに対しても対象としゼロベースで市民評価委員会において選定し議論するべきであると思います。我々市民から見たら、時代とともに改善していくところは改善していかなければならないと思う。</p> <p>そこら辺を踏まえて、来年度の事業選定については、来年度の当初予算が3月議会で議決されると思うが、それくらいに、市民評価委員会の評価結果に対して、経営戦略会議においてどのような結論付けをして、その結果予算にどのように反映したかを説明して頂くと同時に、23年度の対象事業の選定方法についてこのようにしたいという説明をしていただきたい。また、経営戦略会議に是非伝えていただきたいのは、無理・無駄・ムラが散見される部分があるので、市民評価委員会としては原点に戻ってゼロベースで評価したい。</p> <p>それと30分で1事業を議論するというのは一般の方が委員となって事業の中身をすべて事前に理解するのは難しいと思いますので、少なくとも、新居浜地域のそれぞれ分野の地域課題、行政課題があるのか、ないのか、あるのであれば、具体的に現状と課題をまず原課から意見を聞いたうえでそれに対してどのようなことが対応策として望まれるかを交通整理しながら評価したい。事業化にむけていくとかというあたりをきっちりやっていかなければ、原課が専門でしょうけれども2年か3年経ったら担当が他の課へ換わるということが場合がありますので、そのような意味では、我々市民の目線でそのような事業も含めてゼロベースで洗い出して評価対象にするという</p>

<p>桑田部会長</p>	<p>ことも含めて改めて委員みなさんの意見を聞きたいと思っています。それに 関連して何かご意見ございますか。</p> <p>評価の観点がまちまちで、当然事業に関しても見方は変わってくると思 います。事業を行う前に市民の意見を聞いているかどうかなどやり方を評価す る事業や結果を評価する事業があっても良い。色々な事業がありますから、 これはする、しないということではなく、観点を变えて対応すればすべて対 応できるのではないかと考えます。</p> <p>実際に今年度、事業選定した際にも具体的に分からない事業もありました が、過去この分野のことを1件もしていないのでこの中から選ばうという というような選び方をしました。</p> <p>もう一点が、部会で必ず結論を出さなければならないということに、難し い点があります。30分だとと言われると、議論しきれない部分が残ることも ありますので、すべての事業で時間を延ばすのではなく、この事業は保留に して、再度人を変えて評価するとか、時間をかけて評価するなどがあっても 良いと思います。</p>
<p>眞鍋委員</p>	<p>文章が分かりづらいです。読んでいても、何をして、何が言いたくて、何 を評価すべきなのかがぼやけて読み取れないので、書く側からすると誰かに 読んでもらいたいという立場にたって書いて欲しいです。</p>
<p>篠原部会長</p>	<p>我々の部会では、説明のために原課で資料を作ってきた所もあり、 分かり易く非常に良かったと思います。</p>
<p>眞鍋委員</p>	<p>全体的なこととして行政の立場として縦割りが本質なので、市民から見 るとどうしても、細かい所だけをやって、全体的なことは分からないように思 えます。ですから、もう少し大きなところのビジョンを持って、取り組んで いけるように、横割りのなビジョンから見るようなシステムに変えていくよ うに総合政策課がリードして取り組んでいくべきではないですかね。</p>
<p>事務局</p>	<p>加藤委員長さんが言われたように、行政課題、地域課題を踏まえたうえで 本来この事務事業があり、それについては各担当課含めて市役所全体そうあ るべきととらまえております。本来この事業は何らかの課題があったうえ で、その解決策として行っているという認識に立って取り組んでもらいた いと思っています。また、その中で、職員はこれだけをしていれば良いとい う認識に立たせないようにその植え付けをやっていかなければならないと思</p>

	<p>っています。また、住民福祉の向上が一番大きな命題ですので、それに向けて行くんだということを常に思う職員であるべきだと思っています。</p>
桑田部会長	<p>個々の問題で議論をしていると、結局そこから先は分からないということになるわけで、本来はここから先を議論することであって、そこを次のステップに繋がるようなシステムづくりを目指して欲しい。</p>
委員長	<p>そのような視点を含めて検討してください。</p>
事務局	<p>分かりました。</p>
桑田部会長	<p>どうしても縦割りと言われますけど、評価する時に、関連した事業について知識があれば良いのですが、知らない事業が多数あるわけです。できれば、系統図のような分野的なものがあればもう少し比較できるかなと思います。それともう一つは、その事業を評価する時に先の観点に立っての話になるのですが、例えば、小中学校の耐震と下水道の整備のどちらを優先するのかという時に、そのような順位付けが難しく、その中で評価せざるを得ないということになると、その事業に関しての評価の観点を変えざるを得ないということになります。同じ分野であればこちらを優先してくださいということになるのですが、違う分野のものを比較する場合は、予算がありあまっていてすべての事業ができるということであれば順位付けはできるのですが、どちらを優先するというのは非常に難しいですから、やはり何か情報がないとなかなか意見が言いにくいという現状です。できれば関連事業に対する系統図などが資料としてあれば、もう少し評価がしやすくなると思います。</p>
委員長	<p>どこまでできるか分かりませんが、そのような視点で検討してみてください。</p>
事務局	<p>現在、第五次長期総合計画を策定しているところですが、系統を分けたような形になっていると思います。4次の対応としては、市民の安全・安心というとらまえ方をすると、色々なことが入ってきた計画になっていまして、道路の問題や浸水の問題などをひとくくりにした安全・安心という作り方になっています。5次については、それを分野として環境というようなフィールドに分けた作りになっています。ただ、来年度の評価につきましては、まだ4次の事業となりますので系統図がどこまでできるかどうかは分かりませんが、検討させていただきたいと思います。</p>

委員長	田那部委員さんそのような視点で何かご意見はございますか。
田那部委員	私も今年初めてこのような会に参加させていただいたわけですが、正直言いますとどのように評価すれば良いのか分からなかったです。多少、自分に関係する事業もあり分かるところもありましたが、これが良いのかどうか分かりませんが、できれば、評価の手順のようなものを示していただくほうが良いのかなというのもあるし、自由な発想でやるのが良いのかなともいうこともあるし、私は今回についてはよく分からなかったです。
委員長	5名の部会員だけで決められるかどうか微妙なところもあると思いますが、そのあたりは、全体会で議論するという方法もあるでしょうから、今は、3つの部会で3回やったら終わりということになっていますので、そこも来年に向けて考えることにしましょう。 それでは次に加藤委員さんお願いします。
加藤照雄委員	私も、田邊委員さんが言われたように、自分に関連する福祉部門については理解し評価できましたけれども、その他の分野につきましては非常に難しく、評価はするのだけれども勉強をさせてもらった感が強く力不足であったと思います。
委員長	専門部会の中で白黒や方向性を結論付けることが難しい場合には、それぞれの部会長が全体会にかけるかどうかを判断していくようにしなければなりません。 それでは次に、伊瀬委員さんお願いします。
伊瀬委員	評価をした後実施に入りますが、その実施段階でもう一度市民の目で、市民の意見を聞いてもらいたい。委員さんが言われたように、順位の問題については、利用者の立場になると金額の多少ではなく、これを先にやってもらいたいということが願いとしてあるわけで、そのような気持ちを込めて評価しているのですが、実際に予算が付いて実施される段階では、我々は何も聞かされない。できると、利用者の希望と乖離したものになっていることもありますので、評価は評価として使い、実施する時にも、それを、もう一度フィードバックできるようなシステムができないものかと思っています。
篠原部会長	部会の中でも伊瀬委員さんからこのような意見がありまして、その時に結

	<p>論としても伊瀬委員さんの言われたことにしようという結論になったのですが、評価として反映させてくれてますよね。</p>
事務局	<p>体育文化課の中で実際に予算が付いたときに、利用団体の方に意見を聞いてからやるということは、担当課も聞いていますので、今年から対応できると思います。</p> <p>そのような意味では、例えば、公園を作ったので何かしましょうと言ったときに、地元自治会の方と一緒に話をして進めているという事例もありますので、取組の姿勢として、行政が勝手に決めて、勝手な思いで作るのではなく利用される方の意見を聞きながら作るということは基本であるべきだと思います。</p>
篠原部会長	<p>加藤委員長さんが言われたように、担当者は2、3年で異動になることがあるが、担当者よりも利用者の方がプロであるため、そのプロの意見を聞くことは大事であるというのが、部会での意見となった。</p>
事務局	<p>市民評価に具体的に反映させていただいております。</p>
委員長	<p>次に加藤委員さんお願いします。</p>
加藤晶子委員	<p>豊かな心・自立部会に2年間参加させていただきましたが、事業としては身近で、生活に密接するものが多かったので、内容も良く分かり、普段聞けないようなことも聴かせていただいて、また、自分の意見も言わせていただいてとてもよかったですと思います。ただ、どちらかというと、実施することが前提での事業ばかりで、評価の方向性には廃止するなどの項目はありましたが、そのような事業はほとんどなかったような気がしました。その辺が、評価することがどの程度の評価であったのかという疑問はありました。</p>
委員長	<p>原課から、仮に現状のまま継続するという説明があったとしても、市民の目線から見て、このようなことはどうですかなどの質問をして、それによって原課がどのような答弁の仕方をするのか、それによっておのずと答えは出てくると思います。</p> <p>次に加藤委員さんお願いします。</p>
加藤学委員	<p>今年度は昨年度と違い、各専門部会で事業選定を行い評価しましたが、私としてはイメージとして、それぞれの項目が建物を建てる場合の瓦のような</p>

	<p>感じで、柱や基礎のようにもっとお金のかかる部分がもっとあるのではないかと思うが、そのところがここに全然出てこずに、上の瓦の部分だけ評価しなさいというようなやり方であったと思います。現実には、人件費を見ても整備事業であれば、それを整備や企画するための人件費であったり、他の人件費が出てきていない。豊かな心に使われる総人件費を含めてどれくらいかかっているのかなどが、市民の目に見えて、それがどのような評価に繋がるかということが分からないと、この瓦の部分だけで、市の行政がどう動いて、それを評価しろと言われても、私のイメージでは瓦の部分だけ評価をやらされているような感じがして、もっと柱や基礎などの大きい部分から評価する必要があるのかなと思いました。</p>
委員長	<p>具体的にはどのようなことですか。</p>
加藤学委員	<p>例えば文化体育の体育施設環境整備事業がありますが、これについては修繕費だけで、現実には運営していくには委託してかかっている費用であるとか、体育文化を振興するためには色々あると思いますが、それをするためにはいくらの経費となるかはここでは見えないので、我々は修繕する部分で良いかどうかの判断はしたけれども、例えば、文化関係でどれくらい新居浜市はどれくらい予算を使っているのかということの評価したい。ところが、文化センターの修繕費という部分だけ評価して、それで本当に新居浜市の市民としての行政評価になるのかという感じがします。</p>
委員長	<p>予算書は各委員さんにお配りしているのですか。</p>
事務局	<p>お配りしておりません。</p> <p>市の全体の予算が一般会計と特別会計で800億円であり、そのうち評価の対象が150億円くらいとなるのですが、人件費を含めて経常的な部分と政策的な部分など市全体の予算の使い方というものを、最初に整理したものをお見せした方が良いのかなと思っています。この予算がこの事業の予算ですなど、もう少し分かりやすい資料をお見せしないといけないと考えています。</p>
委員長	<p>どの分野に優先的に予算を付けるかどうか、また同じ分野でも優先順位を付けてこの事業からやっていくという事は市民から選ばれた市長の専権事項です。ただ、そのような中で市民評価委員会やるということは、市長が判断した事業について、市民の目線で評価することです。市長の専権事項</p>

	<p>まで侵せない中で、具体的にある程度中身を知ったうえでないと評価できないし、その事業を分かるためには、ある程度予算書なり、長期総合計画などを見ておかないと難しいと思います。</p> <p>事業を選ぶときには、枝葉の部分でなく根本となる部分を選んでいくというようにしなければならないため、最初に説明を求めるのも一つのやり方であると思います。</p>
事務局	分かりました。
委員長	次に太田委員さんお願いします。
太田委員	<p>市民評価委員会で評価した事業が経営戦略会議に図ってどれくらい活きているのか、結果を教えてほしい。それともう一つ、500もある事業の中で、我々が評価したのは43事業でしかないということをはっきり伝えてほしい。市政で実施している事業がすべて市民評価の意見を聞いていることを言われたら、ちょっと違うのではないかと感じます。</p>
事務局	ここ2年間ですが結果が、変わった点につきましては、説明させていただいております。
委員長	最後に眞鍋委員さんお願いします。
眞鍋委員	<p>桑田委員さんが言われたことについて関連することなのですが、関連事業のことをこの様式に書いてもらったかどうかですかね。例えば、下水道であれば合併処理浄化槽の項目を書いてもらうと、これとの関連で重点できるなど判断できるのではないかと思います。他にも色々関連しているものはあると思います。</p>
委員長	<p>このことは、財政課にいて予算全般を把握している職員でも難しいと思いますので事務局にやってもらうのは無理だと思います。すべての事業をすべて提示してもらったうえで我々が選ようにして、我々もそれを選ぶだけの勉強をしないといけないと思います。</p>
事務局	<p>選ばれる時の分かり易さなどは、もう少し事務局で検討していきたいと思っています。</p>

桑田部会長	優先順位まで広げて評価できるのかということについて、まず、各関連との引き合いを評価したのではなくて、各事業別の評価をしたということは、理解しておくべきです。例えば重要事業から7事業を選んで欲しいなどの提案があればそれはできる、だからそのようなことも検討されて、この中でどちらを優先しますかというようなことを市民に意見を聞きたいということをお打診していただければやり易いです。また、最初の説明の時に、この事業はどちらを採用しようかとした時に、こちらを採用しましたというような説明があれば、その結果に対して評価することはできます。
伊瀬委員	43事業に絞る前に、事務局から提示された事業数はいくつありましたか。
事務局	513事業ありまして、その内補助金事業や自己評価で廃止する事業が152事業ありますので、全部で361事業から選んでいただいております。
伊瀬委員	これだけ減らしたことについては、議論していませんよね。
委員長	補助金公募申請について、市民評価の対象とするよう検討してください。
事務局	分かりました。
委員長	<p>来年4月頃になると思いますが、経営戦略会議での結果や予算の動向を含めて、事務局から説明してもらった後に、平成23年度として評価する際にどのような視点で評価するのか、また対象事業の選定方法についても色々な考え方もあると思いますので、そのあたりも踏まえて皆さんと議論しまして、色々な意見を集約したうえで、より良い市民評価の結果となるようにしたいと思いますので、皆さんもご意見を考えておいていただければと思います。事務局についても前もって日程調整を行い文章で通知をしてください。</p> <p>他にご意見ありませんでしょうか。</p> <p>無いようでしたら、これで市民評価委員会は閉会したいと思います。長時間に渡りご協力ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>